

2017（平成 29）年度事業報告

日本鑄造工学会は平成 23（2011）年 4 月 1 日に公益社団法人として登記を行い、新定款第 3 条（目的）のとおり「鑄造工学に係る学術及び技術の振興を図り、日本及び世界のものづくり基盤産業の発展に寄与し、社会の豊かな生活を実現することを目的とする」に合致した公益事業をこれまで以上に活発に展開してきた。今年度、日本鑄造工学会は創立 85 周年を迎えた。経済情勢の現況や会員数の減少など本会を取り巻く情勢は厳しいが、2014 年 5 月に展開した第 2 期長期ビジョンのロードマップ進捗を振り返り、新たな長期ビジョンについて検討した。具体的には鑄造に携わる仲間を増やすことを狙いに、鑄造の魅力は今まで以上に多くの若い方々に伝える活動を推進することである。そのための活動資金を予算化し、活動を推進した。

公益事業としては、公 1：鑄造工学に関する学術講演会、講習会等の開催事業、公 2：鑄造工学に関する調査研究事業及び相談事業、公 3：鑄造工学に関する表彰及び奨励事業、公 4：鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業、そのほか、他 1：会員に頒布する図書発行事業、他 2：鑄造工学に関する相談事業、6 つの区分にしたがって活動を行った。

平成 29（2017）年度実施した事業は以下のとおりである。

1. 学術講演会、講習会等の開催事業（公 1）

国内の鑄造業界においてはさまざまな課題が山積している。課題克服に向け、この技術を受け継ぎ、さらにそれらを発展させることのできる人材の育成、海外との競争力強化、経営基盤の強化、環境対策、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく努力をどのように進めるかの検討を行ってきた。

2017 年度は、9 月に創立 85 周年記念式典を秋田大学で開催し、特別講演会及び特別オーガナイズドセッションを行うとともに中国及び韓国から代表者を招待した。全国講演大会は、春季と秋季に 2 回開催し、合計 258 件の研究成果の発表・討論を行った。また技術講習会、若手鑄造技術者を中心とする YFE 大会、鑄造関連工場の見学会、鑄造関連商品やその技術に関する展示会などの諸行事も同時に開催し、一般市民や会員にとっての交流の場を作ってきた。春季大会では、2017 年度、鑄造工学会の論文賞、日下賞を受賞した方々、秋季大会では 2017 年度、鑄造工学会の技術賞、豊田賞を受賞した方々の講演を実施した。さらに鑄物や鑄造技術を身近に感じることができる「こども鑄物教室」、学生を対象にした鑄造コンテストや、工場見学会により、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく機会を設け、鑄造工学や鑄物製品に初めて触れ、それを端緒にして鑄造技術を受け継いでいく人材の育成を行った。具体的には、高校生を対象に、これまで開催してきた北海道地区の「理系学生応援プロジェクト」を関東地区、東海地区でも開催し、鑄造技術や工学に興味を持ってもらう機会を作った。

また各支部主催で、地域に密着した、要求に沿ったテーマを選び、講演会、講習会を実施した。その他、関連団体との共催による講演会、講習会、研修会の開催も行った。

- (1) 全国講演大会を春季に関東支部（東京）、秋季に東北支部（秋田）で開催。
- (2) 創立 85 周年記念式典を秋田大学で開催。
- (3) 講演会・技術講習会等は、特別講演、地域等の協力を得て、北海道、東北、関東、北陸、東海、関西、中国四国、九州の全支部で、その特徴を生かして計 47 回開催。
- (4) YFE 大会は全国講演大会時の開催、若手討論会を含み 4 回開催。
- (5) 工場見学会は講演会開催地での見学、YFE 大会時の見学など 8 回開催。
- (6) こども鑄物教室は 4 会場で開催。

- (7) 日韓, 日中交流講演を1回開催.
- (8) AFC-14 アジア鋳物会議参加
- (9) 中国鋳造工学会参加
- (10) 日韓共同セッション参加
- (11) 人材育成のための鋳造カレッジは, 日本鋳造協会との協力により4地区で開催, 素形材センターとの協力による研修講座, 技術セミナーを多くのテーマについて開催.

2. 鋳造工学に関する調査研究及び相談事業 (公2)

一昨年から鋳造工学に関する調査研究事業に加えて, 鋳造工学に関する相談事業を行った. 鋳造工学に関する技術的な相談をしたいと考える一般市民に対して相談できる機会を設け, 技術的な問題解決に寄与していく.

調査研究事業として, 各技術分野の専門家による, 鋳造工学に関する研究, 調査, 技術交流事業を行ってきた. 研究委員会では, 新たに「IoT 研究部会」を立ち上げることを決定したほか, 常設の研究部会, 地域のニーズに合わせた鋳物研究部会, 現場鋳造技術部会, 専門部会や合同研究部会による活動を行った.

研究成果は研究報告書により公開し, 希望者は報告会等に参加, 調査研究結果の有効活用に努めた. また広く鋳造工学に関する情報や資料の収集を行い, その研究成果を発表した.

- (1) 研究部会活動の推進とテキストの発行, 技術レビュー記事などを「鋳造工学」誌に発表.
- (2) 全国講演大会時にオーガナイズドセッションを開催し, 部会活動の成果を報告.
- (3) 鋳造技術部会, 現場鋳造技術研究会, 合同研究会, 鋳物研究会, その他各種研究会等多数開催.

3. 表彰及び奨励事業 (公3)

将来の鋳造産業及び日本の製造業の発展のため, 優れた業績を挙げた会員や一般市民に, 日本鋳造工学会大賞をはじめ11種類の表彰を行った. この他, 学術講演会で研究成果を発表した学生の優秀な講演に対する表彰, 鋳造関連企業に就職した大学等の卒業生を対象に設けた奨励賞制度で表彰した. また, 寄付金をもとに設定した基金から, 若手研究者の研究奨励, 若手活動支援, 新東工業鋳造技術研究奨励の制度により研究等の奨励を行った.

各支部においては, 地域に密着した表彰及び奨励制度により, 表彰, 奨励を実施した.

(1) 表彰

a. 本部関係

日本鋳造工学会大賞 (2件), 優秀論文賞 (1件), 論文賞 (3件), クボタ賞 (2件), 飯高賞 (1件), 功労賞 (7件), 技術賞 (3件), 網谷賞 (4件), 豊田賞 (3件), 日下賞 (3件), キャスティングズオブザイヤー賞 (3件) の授与

b. 支部関係

北海道支部: 功労賞2名, 長岡賞2名, 65周年特別賞2名, **東北支部:** 大平賞1名, 金子賞1名, **関東支部:** 現場改善賞2サークル, **東海支部:** 支部賞13名, 奨励賞3名, 堤記念賞1名, 功績賞1名, 功績賞1名, 特別表彰1名, 感謝状5名, **関西支部:** 石野賞1名, 功労賞1名, 技術功労賞4名, 研究奨励賞2件, 支部奨学賞2名, **中国・四国支部:** 片島賞9件, 功労賞2名, 奨励賞2名, **九州支部:** 技能功労賞3名に授与.

(2) 奨励

a. 本部関係

特別若手研究奨励金 (1名), 若手研究奨励金 (3名), 若手活動支援金 (2名), 新東工業鋳造技術研究奨励金 (1名) に授与.

b. 支部関係

関西支部：研究奨励助成2件の実施

4. 鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業（公4）

学会誌「鑄造工学」を毎月発刊した。最新の研究論文、技術論文をはじめ技術報告、解説、連載講座「鑄造工学概論」に続き「鑄造要素技術概論」を継続した。現場技術改善事例、レビューの他、シリーズは、学会員の「海外生活体験レポート」を継続掲載した。鑄造業界要人のインタビュー記事、またYFE委員会による各支部の「YFEだより」も掲載した。Q&Aコーナー、また今年は特集を3回掲載し、研究者、技術者及び経営者のいずれの方にも役立つ情報を拡大掲載した。また英文誌「Materials Transactions」の13学協会との共同発刊に協力するとともに、本会会員の投稿を積極的に推進した。特記事項として、創立85周年を記念し「戦中・戦後から平成へ 激動の時代を鑄た先人たち」を出版し、希望者に無償で配布していた。

また、支部においては地域の会員などとの魅力ある活動の一環で、地域に特徴をもった支部会報の発行を進め、普及を図った。

(1) 学会誌「鑄造工学」の定期発刊

会誌「鑄造工学」第89巻第4号より第90巻3号までの12冊を発行した。

特集号を6月、8月、12月に発行した。

6月特集「鑄鉄の溶解、溶湯性状とキュポラ溶解用バイオコークス」

8月特集「人工砂」

12月特集「ダイカストの生産性向上、高品質化、高機能化に関する最近の技術」

(2) 創立85周年を記念し「戦中・戦後から平成へ激動の時代を鑄た先人たち」を発行した。

(3) 全国講演大会講演概要集（研究報告258編）を5月と9月に発行した。

(4) 技術講習会テキストを5月、8月、9月に発行した。

5月「3Dプリンター技術の鑄造への適用と展望」

8月「鑄造現場における鑄仕上げの最新情報」

9月「鉄系鑄物およびアルミニウム系鑄物の基礎と応用」

(5) 支部会報発刊：北海道支部第145号、東北支部第53号、中国四国支部会報「こしき」第40号の発刊。その他、ニュースレターの発行、各支部ホームページにより地域に合った情報発信を行っている。

5. 会員等に頒布する図書発行事業（他1）

専門誌、図書発行を行う。当事業では、鑄造研究者、鑄造技術者向けに鑄造工学に関する専門誌を発行し、会員はじめ鑄造関連技術者相互の利益を図ることとしている。

主に鑄造分野の特定領域について深く掘り下げた専門性の高い内容を図書としているもので、多くの販売が望めないものであるが、鑄造分野においては必要不可欠な、将来に残すべき内容をまとめて発刊する。その分野の先進の専門家が編集委員会を組織し、データの収集と編集を行っている。今年度は創立85周年を記念し「戦中・戦後から平成へ激動の時代を鑄た先人たち」を発刊、また鑄造要素技術概論「ダイカスト」を発刊した。

(1) テキストなどの発行

(2) 「戦中・戦後から平成へ激動の時代を鑄た先人たち」の発行

(3) 「鑄造要素技術概論 ダイカスト」の発行

6. 鑄造工学に関する相談事業（他2）

昨年より「鑄造工学に関する相談事業」を実施し始めたが、具体的には次に記す3つの事業で会員を対象にしたものである。

1) 鑄造工学に関する技術相談事業

- 2) 鑄造工学に関する論文執筆相談事業
- 3) 現場技術改善事例の執筆相談事業

7. その他、本会の目的を達成するための事業

- (1) 国内関係
他学協会（(公社) 日本工学会, (一社) 日本鑄造協会, (一財) 素形材センター, 等）との協力
- (2) 国際関係
国際鑄物機構理事会等への参加, アジア鑄物会議への参加, 中国・韓国鑄造工学会との交流, 海外開催学会への派遣など.

8. 本会の法人管理・運営に関する事業

- (1) 総会, 理事会の開催（本部, 支部）
- (2) 各種委員会の開催など.（本部, 支部）

2017(平成29)年度事業報告に関する事項

1. 総会に関する事項（定款第13条）

2017（平成29）年度定時社員総会

日時 2017（平成29）年5月27日（土）15:40～17:00

場所 東京都市大学 世田谷キャンパス

（東京都世田谷区玉堤1-28-1）

出席者 143名（委任状81名を含む）（代議員総数197名）

審議事項 (1)2016（平成28）年度事業報告

(2)2016（平成28）年度収支報告

(3)2016（平成28）年度監査報告

(4)名誉会員推薦の件

（以上いずれも可決）

報告事項 (1)2017（平成29）年度事業計画

(2)2017（平成29）年度収支予算計画

(3)若手研究奨励金・支援金，新東研究奨励金等授与者報告

(4)2017（平成29）年度各賞授賞者

2. 表彰・奨励に関する事項（定款第4条）

1) 表彰 2017（平成29）年度各賞の受賞者は次のとおり。

（敬称
略）

- | | | |
|--------------|--------|---|
| (1)日本鑄造工学会大賞 | ・石原安興 | ・松原安宏 |
| (2)優秀論文賞 | ・古川雄一 | 田端英二 松原弘之 竹本悠人
恒川好樹 |
| 論文賞 | ・平田直哉 | 安齋浩一 |
| | ・久保 順 | 森 雄飛 鈴木進補 中江秀雄
久保公雄 |
| | ・門井浩太 | 橋本匡史 篠崎賢二 |
| (3)クボタ賞 | ・菅野利猛 | ・和氣 慎 |
| (4)飯高賞 | ・山縣 裕 | |
| (5)功労賞 | ・村田秀明 | ・若林光洋 舟木克之
・青山俊三 柏井茂雄 九十九 徹
・惠良秀則 |
| (6)技術賞 | ・八百川 盾 | 杉浦直晋 |

- ・金澤賢一 矢野賢一 小倉純一
- ・渡辺兼三 古志野康博 井上晃利
- (7) 豊田賞
 - ・株式会社本田技術研究所四輪R&D センター
柳河精機株式会社
 - ・新東工業株式会社
 - ・株式会社大紀アルミニウム工業所
- (8) 日下賞
 - ・松木俊朗 ・柳楽知也 ・遠藤栄治
- (9) 網谷賞
 - ・株式会社木村鋳造所 材質改善チーム
 - ・株式会社今西製作所 成形技術部
 - ・株式会社センシユール デマンドⅡ
 - ・トヨタ自動車株式会社 SSサークルpartⅡ
- (10) キャスティングズ・オブ・ザ・イヤール賞
 - ・有限会社香川ダイカスト工業所
株式会社ハーズ実験デザイン研究所
 - ・株式会社水沢鋳工所
 - ・株式会社マツバラ

2) 奨励

- (1) 2017（平成29）年度「新東工業鋳造技術研究奨励金」を1名に授与した。
- (2) 2017（平成29）年度鋳造業関連に就職した大学等の卒業者30名に「奨励賞」を授与した。
- (3) 2017（平成29）年度「特別若手研究奨励金」を1名、「若手研究奨励金」を3名に授与した。
- (4) 2017（平成29）年度「若手活動支援金」を2名に授与した。

3. 主務官庁指示に関する事項

下記のとおり内閣総理大臣宛てに報告書を提出した。

- 1) 2016（平成28）年度事業報告書及び収支決算書
平成29年6月30日
- 2) 2018（平成30）年度事業計画書及び収支予算書
平成30年3月31日

4. 登記に関する事項

今年度は登記案件なし。

5. 全国講演大会（定款第4条）

1) 第169回全国講演大会及び諸行事に関する事項

日時：2017（平成29）年5月26日（金）～5月29日（月）

場所：東京都市大学 世田谷キャンパス 東京都世田谷区玉堤1-28-1

参加：795名

(1) 研究論文発表 123件（論文賞，日下賞受賞記念及びH28新東工業鑄造技術研究奨励講演を含む）

(2) 優秀論文賞受賞記念講演

a. 古川雄一君

「アルミニウム合金の溶湯熱を利用するダイカスト工程内金型軟窒化プロセス」

(3) 論文賞受賞記念講演

a. 久保順君

「表面張力と酸化被膜の影響を考慮した薄肉平板アルミニウム合金鑄物の湯流れ解析」

b. 平田直哉君

「安定化粒子法による注湯中の凝固を考慮した引け巣形成挙動解析」

(4) 日下賞受賞記念講演

a. 柳楽知也君

「金属合金の凝固，固液共存体の変形その場観察による凝固組織形成および鑄造欠陥形成機構の解明」

b. 遠藤栄治君

「合金工具鋼鑄鋼の組織，機械的性質及び摩耗特性」

c. 松木俊朗君

「肉厚の異なる片状黒鉛鑄鉄の引張強さに及ぼす合金元素の影響」

(5) 新東工業鑄造技術研究奨励講演

a. 永瀬丈嗣君

「先進電子顕微鏡法を利用した球状黒鉛鑄鉄の組織観察」

(6) オーガナイズドセッション

「グローバル化に対応した鑄造設備」

「ダイカストの生産性向上，高品質化，高機能化に関する最近の技術」

「電磁気的手法による鑄鉄の非破壊試験」

「特殊鑄型システムと環境適応化」

「現場技術改善事例」

(7) パネルディスカッション

「鑄造業界が求める人材」

・パネリスト 旗手 稔（近畿大学）

木村寿利（株式会社木村鋳造所）

牧野泰育（新東工業株式会社）

平塚貞人（岩手大学）

・司会者 西 直美（ものづくり大学）

(8) 工場見学会 参加者 163名

1班 日野自動車株式会社新田工場，株式会社木村鋳造所群馬工場

2班 株式会社G & U技術研究センター，本田技研工業株式会社小川
エンジン工場

3班 株式会社アイメタルテクノロジー土浦工場，日立建機株式会社
土浦工場

4班 株式会社真岡製作所，日之出水道機器株式会社栃木工場

5班 美濃工業栃木株式会社，日産自動車株式会社社栃木工場

(9) 懇親会 参加者 413名 東京都市大学 世田谷キャンパス学生食堂

(10) 技術展示会

カタログ展示コーナー出展社数 50社

PRセッション 16社

(11) エクスカーション 参加者 10名

2) 第170回全国講演大会及び諸行事に関する事項

（日本鋳造協会平成29年度秋季大会との合同大会）

日時：2017(平成29)年9月29日（金）～10月2日（月）

場所：秋田大学 手形キャンパス（秋田市手形学園町1-1）

参加：796名（内 日本鋳造協会50名）

(1) 研究論文発表 135件（論文賞，技術賞，豊田賞記念講演を含む）

(2) 論文賞受賞記念講演

a. 門井浩太君

「片状黒鉛鋳鉄溶接のための共金系溶接材料の検討」

(3) 技術賞受賞記念講演

a. 八百川盾君

「型レス鋳造技術の開発と展開」

b. 金澤賢一君

「ダイカストにおける空気巻き込み欠陥低減のための湯口方案最適設計
技術の開発」

c. 井上晃利君

「鋳物砂の新再生システムの開発」

(4) 豊田賞受賞記念講演

- a. 金田圭之朗君
「傾動金型重力鑄造機の開発による安定したアルミ鑄物づくりへの貢献」
 - b. 大城直人君
「高熱伝導ダイカスト部品市場の拡大」
 - c. 朝見明彦君
「アルミ中空ダイカストサブフレームの開発」
- (5) 特別講演（日本鑄造工学会創立85周年記念）
- a. 下町ボブスレーの会会長 ゼネラルマネージャー 細貝淳一氏
「下町ボブスレーの軌跡」
 - b. 中国機械工程学会鑄造分会副会長 Mr. Yanqing Su
「 Directional solidification of peritectic TiAl alloys 」
 - c. 韓国鑄造工学会理事 Dr. Seung-Mok Yoo
「Development of Eco-friendly Lorganic Binder System for Alminum Castings」
- (9) 特別セッション（日本鑄造工学会創立85周年記念）
「黒鉛球状化理論」 6件の講演
- (10) オーガナイズドセッション
「生型砂管理技術の再構築Ⅱ」
「日韓共同セッション」
「鑄造CAEの活用と最適化」
- (11) 工場見学会 参加者 98名
- 1班 日立オートモティブシステムハイキャスト株式会社岩手事業所,
美和ロック株式会社盛岡工場
 - 2班 株式会社水沢鑄工所, 株式会社アイメタルテクノロジー北上工場
 - 3班 株式会社東北機械製作所マテックス事業部,
秋木製鋼株式会社, 新東北メタル株式会社
- (12) こども鑄物教室 150名参加
- (13) 懇親会 参加者 539名 秋田キャッスルホテル
- (14) 企業技術展示会
カタログ展示コーナー 展示企業 36社, PR コーナー 8社紹介
- (15) エクスカーション 参加者 19名

6. 技術講習会に関する事項（定款第4条）

- 1) 「3Dプリンター技術の鑄造への適用と展望」
日時：2017（平成29）年5月26日（金）10:00～17:20
場所：東京工業大学 大岡山キャンパス

参加者：224名

-題目及び講師-

- (1) 3Dプリンターに係る経済産業省の取り組みについて
経済産業省素形材産業室 松田 均
- (2) (株)コイワイにおける3Dプリンターの活用 (株)コイワイ 小岩井修二
- (3) (株)木村鋳造所における3Dプリンターの活用 (株)木村鋳造所 木村寿利
- (4) 超精密三次元造形システム技術開発の目標と課題 産業技術総合研究所 岡根利光
- (5) 量産適用を目指した高速積層造型装置の開発 (株)シーメット 大場好一
- (6) 積層造型材料開発 群栄化学工業(株) 永井康弘
- (7) 積層造形鋳型の特性評価とCAE連携
北海道立総合研究機構 戸羽篤也
兵庫県立工業技術センター 兼吉高宏
早稲田大学 吉田 誠
秋田県産業技術センター 内田富士夫
- (8) 3Dプリンター技術の自動車部材への適用と展望 日産自動車(株) 八下田建次
神戸洋史
- (9) 建設機械・重工メーカーにおける3Dプリンターの適用と展望
コマツキャストテックス(株) 高橋啓二
(株)IHI 齋藤侑里子

2) 「鋳造現場における鋳仕上げの最新情報」 関西支部共催

日時：2017（平成29）年8月28日（月）10:00～17:00

場所：近畿大学 東大阪キャンパス BLOSSOM CAFE3階（大阪府東大阪市）

参加者：65名

-題目及び講師-

- (1) 菱和工業の鋳仕上げの現状 (株)菱和工業 渡壁 正
- (2) 金属加工時の労働安全性の必要性 スリーエムジャパン(株) 内田裕介
- (3) 鋳鉄鋳物の検査工程見直しによる生産性の向上 (株)北川鉄工所 松原輝子
- (4) バリンドーの最新情報 (株)コヤマ 臼田 宏

3) 「鉄系鋳物およびアルミニウム系鋳物の基礎と応用」

日時：2017（平成29）年9月29日（金）10:00～17:30

場所：秋田大学 手形キャンパス

参加者：62名

-題目及び講師-

〔鋳鉄分科会〕

- (1) 耐摩耗鋳鋼・鋳鉄の製造技術 元(株)アーステクニカ 田村 朗

- (2) 技術伝承と革命の融合で創成「芸術的で荘厳なダクティル鋳鉄製精密二重橋高蘭の作製について」
元(株)クボタ 和氣 慎
- (3) 薄肉鋳鋼タービンハウジングの技術開発と実用化
アイシン高丘(株) 佐藤高浩
〔鋳造プロセス分科会〕
- (4) 機械振動付与法スラリーによるアルミニウム合金セミソリッドダイキャスト技術
産業技術総合研究所 村上雄一郎
- (5) Al-Si合金中のSrなどの微量元素の存在形態と共晶Si微細化への寄与
京都大学 安田秀幸
- (6) Al-Si系合金の共晶凝固に及ぼすPの影響
アイシン・エイ・ダブリュ(株) 豊田充潤

7. 各賞受賞記念講演会に関する事項（定款第4条）

受賞記念講演を実施した。

- (1) 論文賞・日下賞受賞記念講演
日時：2017（平成29）年5月27日（土）～5月28日（日）
場所：東京都市大学 世田谷キャンパス
- (2) 技術賞・豊田賞・論文賞受賞記念講演
日時：2017（平成29）年9月29日（土）～9月30日（日）
場所：秋田大学 手形キャンパス

8. シンポジウムに関する事項（定款第4条）

今年度は実施案件なし。

9. 国際会議に関する事項（定款第4条）

- 1) AFC14参加
日時：2017（平成29）年11月7日（火）～11月10日（金）
場所：仁川
参加者：寺嶋副会長，熊井国際関係委員長
- 2) 中国鋳造工学会参加
日時：2017（平成29）年11月14日（火）～11月17日（金）
場所：蘇州
参加者：木口会長，小岩井氏，岡安氏，朴氏

10. 出版に関する事項（定款第4条）

- 1) 定期刊行物
会誌「鋳造工学」第89巻第4号より第90巻第3号までの12冊を発行，

- (うち6号, 8号, 12号は特集号) 全会員に配布, 希望者に頒布を行った.
- 2) 「戦中・戦後から平成へ 激動の時代を铸た先人たち」発刊.
 - 3) 「铸造要素技術概論 ダイカスト」発刊.
 - 4) 講演大会講演概要集(参加者に配布及び希望者に頒布)
 - (1) 第169回講演概要集 123編
 - (2) 第170回講演概要集 135編
 - 5) 技術講習会教材(参加者, 維持会員への配布及び希望者に頒布)
 - (1) 「3Dプリンター技術の铸造への適用と展望」 2017年5月発行, 115頁
 - (2) 「铸造現場における铸仕上げの最新情報」 2017年8月発行, 75頁
 - (3) 「鉄系铸物およびアルミニウム系铸物の基礎と応用」 铸物第24委員会铸鉄分科会報告2冊, 铸造プロセス分科会報告1冊(参加者のみ配布)

11. 各種委員会に関する事項(定款第4条)

- 1) 企画委員会に関する事項
 - (1) 本会及び会員の活性化を目的とした諸企画を立案・実践した.
 - (2) 創立85周年を記念し特別オーガナイズドセッションを開催した.
 - (3) 各種規程類の見直し・改定を進めた.
 - (4) 他の学協会との連携を推進するための提案の策定を行い, (一社) 日本铸造協会との秋季大会合同開催及び铸造カレッジ開催の支援・協力, (一財) 素形材センターとの研修講座の共催を行った.
 - (5) 各賞表彰選考及び研究奨励金・支援金授与者の選考を行った.
 - (6) 理系学生応援プロジェクトを継続, 拡大推進した.
 - (7) 第3回「学生铸物コンテスト」を開催した.
 - (8) 本部と関西支部共催で8月に講習会を開催した.
 - (9) 支部主催の講習会を支援した.
- 2) 編集委員会に関する事項
 - (1) 連載講座「铸造要素技術概論」を継続掲載した.
 - (2) 電子査読システムの運用継続.
 - (3) 英文誌“Materials Transactions”共同刊行を推進した.
 - (4) 第89巻6号で「铸鉄の溶解, 溶湯性状とキュポラ溶解バイオコークス」, 8号で「人工砂」, 12号で「ダイカストの生産性向上, 高品質化, 高機能化に関する最近の技術」を特集し発行した.
 - (5) 全国講演大会時で「学生優秀講演賞」を春5名, 秋6名に授与した.
 - (6) 論文賞, 網谷賞の選考を実施した.
 - (7) 「戦中・戦後から平成へ 激動の時代を铸た先人たち」, 「铸造要素技術概論 ダイカスト」を発刊した.

3) 国際関係委員会に関する事項

- (1) 日中韓の鑄造工学会交流を推進した。今年度は中国鑄造学会の講演大会に代表者を派遣した。
- (2) 創立85周年記念式典に中国及び韓国から招待した。
- (3) AFC14に代表者を派遣した。
- (4) 日韓共同セッションを開催した。(第170回全国講演大会時)
- (5) 英文誌“Materials Transactions”共同刊行への協力。また、本英文誌へ本会員の研究論文の掲載を支援した。

4) 研究委員会に関する事項

- (1) 研究部会活動の推進を行った。
- (2) 各研究部会の活動状況を理事会で報告した。
- (3) 全国講演大会で8部会のオーガナイズドセッションを開催した。
- (4) 新たにIoT研究部会の立ち上げを立案した。

5) YFE委員会に関する事項

- (1) 各支部YFE委員により、「鑄造工学」誌に「YFEだより」の掲載を継続。
- (2) 各支部ごと、地域の特徴を生かし積極的なYFE活動が展開された。
- (3) 理系応援プロジェクトの全国展開を支援した。

6) 財務委員会に関する事項

- (1) 財政強化施策として、経費削減活動を継続的に推進した。
- (2) 広告のカラー掲載増加により広告掲載収入の拡大を図った。
- (3) 会計業務の監督・指導と財政の健全運営化を進めた。
- (4) 2017(平成29)年度決算、2018(平成30)年度予算案の策定を行った。

7) 人材育成委員会に関する事項

- (1) (一社)日本鑄造協会主催の「鑄造カレッジ」開催に協力した。4地区で実施。(北海道地区、関東地区、東海地区、関西地区)
- (2) 「鑄造カレッジ」上級コースの4年目開催に協力した。
- (3) 他の学協会等と共催して、人材育成関連事業の支援を推進した。

8) 広報委員会に関する事項

- (1) 「鑄造工学」第90巻まで、J-STAGEへ掲載し閲覧できるようにした。第85巻から第90巻は、会員専用のID及びパスワードで公開。

- (2) 全国講演概要集の142回～170回までをJ-STAGEに登載し公開した.
- (3) 「戦中・戦後から平成へ 激動の時代を铸た先人たち」を無料配布.
- (4) メーリングマガジンによる学会活動の会員へ配信の充実.

12. 会員移動に関する事項

1) 会員別の増減

会員別	正会員	学生会員	外国会員	維持会員 (事業所数)	維持会員 (口数)	名誉会員
2017年3月末	2,741	86	41	393	528	32
2018年3月末	2,743	89	41	395	525	32
増減	+2	+3	±0	+2	▲3	±0

2) 支部別の内訳 (2018 (平成30) 年3月末)

支部	正会員	学生会員	維持会員	同左口数
北海道	60	11	8	9
東北	198	13	32	36
関東	686	34	104	137
北陸	138	7	17	21
東海	888	9	125	179
関西	366	12	57	84
中国・四国	278	1	33	38
九州	129	2	19	21
合計	2,743	89	395 (海外0)	525 (海外0)